



TITLE:

エルシン酸分離の一新方法

AUTHOR(S):

木村, 和三郎

CITATION:

木村, 和三郎. エルシン酸分離の一新方法. 化学研究所学術報告 1929, 1

ISSUE DATE:

1929-11-30

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/74489>

RIGHT:

1. 此測定に於て油酸、エライデン酸及リノール酸に遊離ロダンは1モル添加す。
2. リノレニン酸に對する遊離ロダンの添加量は1モルと2モルの間に在り此事實は六臭化ステアリン酸の脱臭素に際しロダン溶液に對する作用を異にする異性體の生成を想像せしむ

エルシン酸分離の一新方法

木村 和 三 郎

(Seif. Ztg., 1929, 56, 182)

菜種油よりエルシン酸を分離するにトイフェル氏等 (K. Täufel u. C. Bauschinger, Z. ang. Chem., 1928, 41, 157) は鉛鹽アルコール法分別沈澱により固體飽和脂肪酸を除去せる菜種油混合不飽和脂肪酸アルコール溶液を中和稀釋しエルシン酸をマグネシウム鹽として沈澱せしめたり

著者は鉛鹽酒精法により固體飽和脂肪酸を除去せる不飽和脂肪酸アルコール溶液を5% 苛性加里にて部分的に中和しエルシン酸を酸性加里鹽 ($C_{22}H_{42}O_2 + C_{22}H_{41}O_2K$) として分離せり此方法による時はマグネシウム鹽稀薄アルコール法に比し操作は簡單にて多量のアルコールを要せず且此を稀薄する不便を省略し得此方法による時は最初より從來の方法によるよりも純度高きエルシン酸を得

砒素の有機化合物に就いて (第一報)

グリニヤール試薬と三鹽化砒素の反應

松 宮 馨

[Mem. Coll. Sci. Imp. Univ. Kyoto, 1920, IV .217]

グリニヤール試薬に對する金屬及びメタロイドのハロゲン化合物の作用により